

<p>法人理念</p>	<p>社会は、一人ひとりが集まることで形成される集団です。その地域社会で共に暮らしていく力を育むために、私たちは「できた」「わかった」を増やす集団療育を実施しています。そして、障害のある子どもが安心して生活できる地域社会の発展に貢献することを目指しています。私たちは、社会に適應する力や自立して生活する力を伸ばし、子どもとその家族の健康・安全・尊厳を重んじる療育を提供します。体づくり、学習、集団参加を基本としたプログラムを通じて、療育支援に取り組んでいます。また、子どもたちが適應能力を伸ばし、社会参加できるよう、幼児期から早期に療育を行います。</p> <p>子どもたちは、経験を重ね、考えたり工夫したり、試行錯誤を繰り返しながら多くのことを学んでいます。同時に、模倣学習や言語学習などを通して脳の活動水準を高め、より高度な人間らしい行動を習得できるようになります。しかし、発達に凹凸がある場合、理解力や経験する力、適應力を高めるスピードが遅くなり、同学年の子どもたちとの成長の差が生じることがあります。また、社会のルールにおいて、ルールを守ることが難しかったり、不適切な行動を取ってしまうことで、集団生活の中でトラブルが生じることがあります。そのため、早期療育の段階で、集団生活に適應する力をしっかりと育んでいくことが重要です。</p> <p>私たちは、体を動かし脳を活性化させ、療育者と一緒に努力する経験を重ねることで、「集団に適應する力」「学習や言語の概念」「身体づくり」の育成に力を入れて療育を行っていきます。</p>		
<p>支援方針</p>	<ol style="list-style-type: none"> 「できた」「わかった」を重ねる支援 子どもたちが小さな成功体験を積み重ねることで自信を育み、成長を実感できる療育を実施します。個々の発達段階に応じたプログラムを提供し、子どもたちの「できる力」を引き出します。 社会性と自立を育む支援 子どもたちが社会のルールや集団生活に適應できる力を養うことを目指します。体づくり、学習、言語発達、集団参加のプログラムを通じて、社会で自立して生きる力を育成します。 安心してできる環境づくり すべての子どもが安心して生活できる環境を整えます。子どもやその家族に寄り添い、心身ともに健やかな成長を支える療育を提供します。 家族と地域社会との連携 子どもたちが地域社会の中で安心して生活できるよう、家族や地域と連携した支援を行います。地域の発展に寄与する療育を通じて、子どもたちの社会参加を促進します。 健康と尊厳を守る支援 子どもたちの健康と安全を最優先に考え、一人ひとりの尊厳を重んじた支援を行います。療育者としての専門性を高め、安心して頼れる存在を目指します。 		
<p>営業時間</p>	<p>10時00分 ~18時00分</p>	<p>送迎</p>	<p>有り</p>
<p>プログラム</p>	<p>支援内容(5領域との関係性)</p>		
<p>始まりの会</p>	<p>はじまりの会では、正しい姿勢で椅子に座り、集中して参加することを目標としています。まず、全員で時間帯に合わせた挨拶を行い、出席確認では名前を呼ばれたら返事をします。その後、日付・曜日・天気を含んで確認・把握します。また、時計の絵カードを見て時刻を答える活動を通じて、季節感や時間の感覚を育みます。さらに、その日の利用者的人数と一緒に数えたり、お金の絵カードを使って金額を答えたり、二つの金額を足す計算を行ったりすることで、数の認知形成やお金に関する学習も行っています。ホワイトボードには絵カード付きで一日のスケジュールを記入し、その内容を口頭でも伝えます。これにより、子どもたちが視覚や聴覚を通して必要な情報を得られるよう配慮しています。これらの活動を毎日繰り返すことで、基本的なコミュニケーション能力の向上を目指しています。</p> <p>◆関連領域: 運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション</p>		
<p>『動』の活動</p>	<p>「動」の活動では、子どもたちの身体的成長と運動能力を高めるため、さまざまな活動を取り入れています。バランスホールやホルダリング、トランポリン、ラダーなどを活用し、全身の感覚向上を目指しています。また、毎日15分以上の歩行をプログラムに組み込むことで、脳を活性化させるとともに、バランスや集中力を養います。歩行後には活動や制作を行うことで、子どもたちが落ち着いた状態で取り組みやすくなります。室内歩行では、指示歩行や手つなぎ歩行を取り入れ、話をしっかりと聞く力の習得につなげています。天気の良い日には地域の道路を歩き、公園などへ出かけます。道路では「右・左・右を確認する」「横断歩道は手を挙げて渡る」といった基本的な交差ルールを実際の体験を通して学びます。公園では走ったり、ブランコやジャングルジムで全身を動かすことで、運動能力や体幹、筋力、柔軟性の向上を図ります。さらに、「だるまんがごろんだ」や「鬼ごっこ」などの運動遊びを通じて、協調性やルールを守る大切さも学ぶことができます。</p> <p>◆関連領域: 運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション</p>		
<p>『静』の活動</p>	<p>「静」の活動では、子どもたちの集中力、自己表現力、社会性の向上を目的としたさまざまな取り組みを行っています。制作活動では、時期に応じたテーマを取り入れ、季節感を養います。のりやハサミといった道具の正しい使い方を学ぶことで、指先の感覚を鍛えるとともに、色彩感覚や集中力の向上にもつながります。また、オリジナルで個性豊かな作品を作ることで、想像力や表現力を育みます。子どもたちが難しい部分には手助けをしながらも、自分で「できた！」と感じられるようにサポートし、成功体験を通じて自信を高めることを大切にしています。毎日の作業では、「座って集中し、決められた仕事をこなす」ことを目標に、5分程度でできる指先トレーニングを提供しています。ひも通しやベークさし、瓶のふた開けやコイン入れなどの作業を通じて、「入れる」「引っ掛ける」「通す」といった日常生活に必要な動作の習得を目指します。たとえば、フェルトボールを色ごとに分ける、指定された順序でチェーンリングをつなけるといった活動は、色や形、大きさなどの認識力も養います。上級生になると、書類を四つ折りにして封筒に入れる、ドライバーでプラグを組み立てる、決められた数のビーズを袋に入れるなど、実習や将来の進路を意識した高度な作業にも取り組んでいます。SST(ソーシャルスキルトレーニング)では、基本的なあいさつやルールの習得を目標としています。たとえば、「おはよう」「さようなら」「いただきます」などの日常的なあいさつをはじめ、トイレに入る前のノック、おもちゃの貸し借り、友達との適切な距離感の保ち方など、基礎的でありながら重要なスキルを練習します。これらは、何度もシミュレーションを繰り返すことで、実生活でも自然に活用できるようになることを目指しています。学習活動では、なぞり書きやひらがなプリントに取り組み、正しい姿勢と鉛筆の持ち方を身につけ、文字を正しく書けるようになることを目指します。また、お買い物練習や電車を使った計算活動も取り入れています。さらに、日々のプログラムとして、特定の感覚統合を促進する活動(例:スライム作り、粘土遊び、空き缶積みなど)を通じて感覚処理の改善を図っています。</p> <p>◆関連領域: 運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション</p>		
<p>おやつ</p>	<p>おやつ時間では、適切な姿勢で着席し、「いただきます」をしてから食べるといった、食事の基本的なルールを学びます。また、お菓子の袋を開ける動作は指先のトレーニングにもなります。自力で袋を開けられない場合には、周りに手伝いを頼む練習を通して、他者に助けを求めようとする方法を身につけることができます。食べ終わった後には、お皿やゴミを自分で片付けることで、責任感や自己管理能力を養います。また、おやつ時間は友達やスタッフと顔を合わせてコミュニケーションを取る機会でもあり、心と体をリフレッシュする大切な時間となります。</p> <p>◆関連領域: 健康・生活、運動・感覚、言語・コミュニケーション</p>		
<p>調理実習 おやつ作り</p>	<p>子どもたちが料理を作る過程を通じて、計画性や協調性を養うことを目的としています。調理を始める前に、食材の名前や特徴を説明し、食べ物への関心を高めます。その後、調理の手順や道具の使い方を一つひとつ丁寧に教え、安全に作業できるよう支援します。包丁やホットプレートを使う際には、注意点をわかりやすく事前に伝え、安全な使用方法を理解してもらいます。調理中は、子どもたちが作業を分担し、協力して料理を進められるように促します。役割分担を通じて、協調性やコミュニケーション能力を育むことを目指しています。調理が終わった後は、完成した料理を囲み、子どもたちが「おいしいね!」と笑顔で感想を言い合う時間を大切にしています。また、苦手な食材があっても一口挑戦してみる、今まであまり食べたことがない料理に挑戦するなど、調理実習を通じて食の幅を広げる機会を提供します。さらに、自分たちで食器を片付けることで、責任感や自己管理能力を育てます。このように、調理実習は子どもたちが料理の過程を通じてさまざまなスキルを身につける貴重な機会となっています。</p> <p>◆関連領域: 健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性</p>		
<p>外出支援 外食支援</p>	<p>子どもたちに社会経験を積ませるとともに、楽しみや学びの場を提供することを目的としています。公園や社会見学、飲食店やお菓子屋さんでの外食・買い物支援など、さまざまな場所への外出を通じて、実社会と触れ合いながら社会性や新しい知識を身につけることができます。外出前には行き先や活動内容を説明し、子どもたちが安心して参加できるように見通しを持たせます。公共の場では基本的なマナーや外出時のルールを守ることを重視し、安全に楽しむことを心がけています。例えば、公共の場では静かに過ごす、皆と一緒に行動するなどです。目的では、体験を通じて学ぶ機会を提供します。公園では自然の中で遊ぶことで健康を促進し、遊具では順番を守るルールを学びます。社会見学では科学館や工場を訪れ、文化や技術に触れながら社会経験を広げます。外食・買い物支援では、自分の欲しいものを選び、財布からお金を出して支払うといった一連の流れを声かけしながら練習します。外食時には、正しい姿勢で座る、店内では静かにする、皆が食べ終わるまで待つといった約束を確認します。そのうえで、子どもたちが楽しく食事をし、友達との思い出を作れるよう支援しています。</p> <p>◆関連領域: 健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性</p>		
<p>家族支援</p>	<p>療育で得た成功体験を共有し、家庭での実践をサポートします。また、保護者の不安に寄り添い、子どもの特性や課題の理解を深めるための情報提供や相談対応を行います。さらに、地域資源の活用を支援し、家族全体が安心して子どもの成長を支えられる環境づくりを目指します。</p>	<p>移行支援</p>	<p>学校や他事業所と連携し、子どもが地域社会で自立して生活できる力を育むことを目指します。支援計画の共有や情報交換を行い、一貫性のある支援を提供します。</p>
<p>地域支援・地域連携</p>	<p>地域連携では、地域イベントへの参加や地域資源の活用を通じて、子どもたちに地域社会とつながる機会を提供します。地域行事では社会適應力を育み、地元住民との交流を深めます。また、公共施設や地域サービスを活用し、子どもや家族が支援を受けやすい環境づくりを進めています。さらに、地域全体で子どもの成長を支える仕組みづくりに取り組む一環として、近隣や公園でのゴミ拾い活動も定期的に実施しています。</p>	<p>職員の質の向上</p>	<p>定期的な研修や情報共有を通じて、療育プログラムの質を高め、適應力や自立を促進する支援方法を磨きます。また、子どもとその家族の健康・安全・尊厳を尊重する姿勢を職員間で共有し、信頼される支援を提供します。</p>
<p>主な行事等</p>	<p>季節の行事(初詣、節分、ひな祭り、お花見、こどもの日、プール指導、ハロウィンパーティ、イルミネーション見学、クリスマス会など)、防災訓練</p>		